平成23年度　第８回市川市市政戦略会議

１．開催日時：平成23年12月21日（水）午後3時30分から午後5時00分
２．場　　所：市役所本庁舎3階　第5委員会室

３．出 席 者：(敬称略、50音順)
会　　長　栗林　　隆
副 会 長　田口　安克
委　　員　青柳　圭子 ・ 青山　真士 ・ 大矢野　潤 ・ 岡田　稔彦・ 小池　信行
鈴木　真理 ・ 田平　和精 ・ 平田　直 ・ 福井　茂子 ・ 森　和男 ・ 吉原　稔貴
（欠席）秦泉寺　友紀 ・ 中台　實

市 川 市　大久保　博　（市長）
笠原　　智　（企画部長）
萩原　　洋　（企画部次長）
鈴木　祐輔　（企画部次長）
大津　政雄　（企画部企画･広域行政課長）

伊藤　　博　（企画部行政改革推進課長）
小林　茂雄　（企画部行政改革推進課主幹）
植松　美穂子（企画部行政改革推進課主査）
阿部　保昭　（企画部行政改革推進課主任）
吉岡　茂幸　（企画部行政改革推進課主任）

４．提出資料：答申書鑑及び答申書(検討結果及び提言)
答申書補足資料(「施設の有効活用に係る公開検討会」当日の主な質疑応答及び意見)

【午後 3 時 30 分　開会】

１．議題

○栗林会長

本日の会議は、先に今回の公開検討会を振り返った議論を行い、その後、市長に答申を行う。まず、A･B両グループを代表して正副会長よりコメントしたい。

○栗林会長

我々はすべての施設を見学し､担当者から話を聞き､事前に数回にわたる勉強会等で知識を補って、その上での当日の公開検討会に臨んだ。

「施設のあり方について」の議論に対する市長の意向は、費用対効果は余り考えることなく、現在の施設の維持を前提に、より市民にとって有用な活用方法を考えてほしいというものだった。しかし答申の中には、ほぼ施設の廃止に近い対応を求めるものや、附帯意見においても厳しい内容をあえて併記した。

そのような中、Aグループに関して結果は資料のとおりだが、本市の中期財政見通しを背景に考えると､当面は施設を維持するもいずれは真剣に統廃合を考えなければいけないことも想定し、より突っ込んだ議論が今後は必要だと私は考えている。

○田口副会長

Bグループにおいては、議論･検討を始める前に、３つの視点から議論してほしいと話した。１つめは目的の明確化。２つめは市民へのアピール。３つめはコストをかけずに市民の満足度を上げること。今回の答申は、概ねその視点に立って取りまとめたと考えている。それらに加え、地域ふれあい館等においては長期的展望の意見も述べている。委員各位及び事務局の協力により、このような答申内容にまとめることができた。

○栗林会長

それでは、答申内容や今回の取り組み自体に対する忌憚なき貴重な意見を、各委員よりいただきたい。

○吉原委員

11 月 19 日の公開検討会当日は止む無く欠席をしたが、勉強会において延べさせていただいた私なりの思いや意見も大分網羅していただき、感謝したい。一つ申し上げると、貸館施設には最も規模が大きい公民館が含まれていなかったが、こうした施設も含めて民業圧迫の視点やその他運用に関する議論をしないと、全体的には効果が薄いのではないかと感じる。

○栗林会長

今回は施設を限定していたので、吉原委員のような意見は当然出ると思う。

今回の取り組みに関してはいかがだったろうか。昨年は国や地方のトレンドとなっていた事業仕分けを本市でも行ったが、これを振り返ると、市川市として事業仕分けを行ったということにまず意義が見出せた。しかしその後、平成23年度も事業仕分けを行うのかどうかは不透明な状態が続いた。我々としてもこうすべきだという要望はもっとしても良かったのかもしれないが、余りアピールはしてこなかった。我々はその都度、事務局に意向を確認したが、平成23年度も事業仕分けを行う方向で検討しているが具体的にはまだわからないとの回答で、市長を始め市川市役所なりの議論は我々の耳にほとんど入ってこなかった。そして難産に難産を次いだうえで、ようやく今回のような形となった。

我々は諮問されているので当然全力投球したわけだが、強いて言えば、会長としては若干合点がいかないというのが本音だ。これだけの委員が集まって多くの労力を割いており、どの委員にも市政に少しでも貢献したいという強い思いがあるわけで、市政戦略会議が今後もっと積極的な方向に進んでいくことを強く望んでいる。

○田平委員

昨年の10月に委員として委嘱され、すぐ事業仕分けに取り掛かり、一生懸命頑張った。そして今年度の前半は窓口の業務の効率化等に取り組み、やはりきちんとした提言ができたと自負心も持っていた。

今回、市長が費用対効果を余り厳しく考えなくてよいと言ったのは、親が子供に「私に親孝行しなくてもいいのだよ」と言っているものと捉えなければいけない。費用対効果は考えるのが当たり前ということだ。したがって、Ａグループでは会長をリーダーに費用対効果を考えながら、一生懸命エネルギーを費やして取り組んだ。それが、行政改革推進課の人がまとめると、こんなに丸い文章になるのかと思った。現状に対するビジョンがあれば、そのビジョンより上を目指すよう強いことを言わなければ駄目だ。それを行政で値切られ、結果的にビジョンどおりの方針が指し示されるものだ。だから市政戦略会議は少々きついことを言わなければいけない会議だと思うが、答申の文章は八方美人、どうにでも解釈できるような文章で愕然とした。

行政の箱物は２度金を食うと従来から言われていた。建設時と運営時の２度だ。しかし私は公開検討会の場で、２度ではなく３度金を食うと言った。それは、民間の施設だったら取れるはずの固定資産税が取れない。収税のチャンスをロスしているということだ。そういう観点に立ち、行政は小さくて効率的､小回りが利くようにしないといけないと繰り返し言ってきたつもりだが、そういう考えは個別の話ということで答申には載っていない。ただ、行政側にはこの考えを経営管理に反映していただきたい。

○小池委員

富士宮焼きそばでまちおこしに取り組んだ人の本を読んでいて、我々のこの取り組みは何のためにやっているのかを考えた。富士宮では市や市民ボランティアが手を組んで、10 年間で 500 億円のビジネスを築いた。その際、様々な施設を使い様々な手法を取り入れたという。翻って、我々は今回、施設ごとにどうするかをいろいろ考えてきたが、その際、これらの施設を使って市川市を活性化させよう、そのために施設を有効活用しようという視点が抜けていたのかもしれないと感じた。それでも、生ぬるい文言かもしれないがある程度の方向性が書かれたせっかくの答申なので、１つでも２つでもぜひ実現していただきたい。

我々は公募市民として選ばれて、市民目線でいろいろと発言しているつもりなので、その意見も全く無視されると存在意義がなくなってしまう。市全体が盛り上がるような施設の活用を、我々が考えてもいいし市で考えていただいてもいい。今回の答申をぜひ施設の有効活用のため実行していただきたい。

○栗林会長

本日市長に答申し、その後行政での議論を経て最終的に議会で決まるという流れになる。我々の答申に対する対応方針を公表していただく運びになっているので、ぜひ期待したい。

答申内容に少し触れたい。Ａグループで議論がほぼ満場一致した案件として、中山文化村《旧片桐邸》がある。旧片桐邸は平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災で一部損壊し、現在立入禁止となっている。これを改修するには 5 千万円以上が必要とされ、Ａグループとしてはそういった費用をかける価値は見出せないと判断し、建物を解体すべきと結論付けた。市長からは各施設存続ありきで、といった意向を聞いていたが、旧片桐邸に関しては解体して更地にすべきだという、強い答申になっている。今後の行政及び議会でどうなるのか、期待をこめて見つめていきたい。

○鈴木委員

資源をより有効に活用するためという切り口として、今回の取り組みは非常に貴重な機会だった。市川市に住んでいて、市が意見を聞いてくれることは本当にすばらしいことと思っている。

私はＢグループで、貸館なら利用率をどう上げるか、公園なら人々をどう誘致するかと、個々のスペースごとにどう有効活用するかという話だった。個々という視点も大事だが、市川市を活性化させるという目的を持つことが大事だと思うので、まずは全体を見てから個々にブレークダウンする考え方も必要だ。例えば貸館ならば、利用者を増やすということはコミュニティー活性化であり、さらに高齢者や育児者の孤立化をキーワードに、施設同士で情報共有しそうした課題も改善していくというような、全体的な物の見方が重要だと思った。

今回の答申を受けた行政の取り組みの効果検証がまた重要になってくるので、そのあたりの情

報共有をさせていただきたい。

○田平委員

私が前職の某製鉄会社にいたとき、部門ごとに利益計画を毎年出さなければならなかった。そして前年実績に対して改善し、更に労働生産性を上げて効率化･合理化しライバルに勝つ。そうして何とか自分たちの生存権を守るのだというようなことを、毎月必ず実践していった。市川市では、企画部の方が改革をしていくのは当たり前だと思うが、各施設を所管する方たちが守旧派というか､現状をとにかく守ろういう姿勢だった｡組織構造としてこれでいいのかと深い疑問を持った。各部門の部長や課長は必ず前年度実績に対し、今年度は更に効率化･合理化、付加価値の増強をしなければいけないという使命感を持ち、そしてそれが世の中の批判に耐えるかどうかをやらなければならない。市役所はそういうことをやっていないのではないかということと、企画部の方たちだけが懸命に改革を連呼し、他の方たちには改革の意識はないのかということの疑問を持った。

○田口副会長

今回の答申をまとめるに当たり、正副会長と事務局とで話し合い、いろいろと練ってきた。丸い文章だという意見もあったが、この市政戦略会議が少々きついことを言うことは確かに大事だと思う。また一方で、行政が実践できる内容の答申かどうかということも大事で、そうした視点も含めながら答申を練っていった。

○森委員

市政戦略会議では、事業仕分けや窓口のあり方についてはコストカット、効率化に主眼を置いて検討してきたが、今回のテーマは、例えば文化資産をどう使っていくのか、というようなものだった。単にカットするだけなら話は早いが、文化財は過去の長い歴史の中で積み上げられてきた財産なので、もちろん効率化に主眼を置くとしても、これら財産をいかに継続していくかという視点で考えることは必要だった。そういうところで、Ａグループの議論の中ではずいぶん悩んだ。答申の内容はこれが妥当かと、落ち着いた内容になったと考える。

○青柳委員

勉強会等では、答申書には載せられないような辛らつな意見もあったので、答申では丸く、やわらかくまとめていただけたかと思う。

国ではいろいろな問題等の先送りをしているので、市としてはこの答申を行政に反映していただき、先送りすることのないようにしていただけるよう願っている。

○大矢野委員

Ｂグループではいわゆる箱物と呼ばれるような施設を担当したが、これらの施設には多目的という言葉が浮かんでくる。多目的というのは建物の性質でなく、使うときの目的でないといけないはずで、これを定めないうちには、多目的に作ったものも無目的になってしまう。

例えば東日本大震災のとき、地域ふれあい館の多くは東西線や総武線の沿線にあったが、帰宅困難者に対して施設を開放していなかった。多目的のまま放置しているというのは、裏を返せば目的を定めないということで、実際にはこうしたときに有用に動けないということだと思う。

我々のミッションとしては、こうした経験から新たな戦略をつくり、施設の利用を促すようなシナリオを描くことだと思った。多目的でつくられた施設は目的がないのでコストパフォーマンスを計算できるはずがない。例えば八幡市民談話室は、貸館だけをやっていたってペイするわけがない。立地が良いのだから広告塔という目的を設定しないと、本当の費用対効果は計算できないのではないか。今回担当させていただいた施設をどう活かしていくかを、我々は再度議論していく必要があるのではないかと思った。

○青山委員

市民の税金の中で行政が動かなければならないということを考えると、コストカットや効率化は考えるべきだし、このことを軸に市政戦略会議はこれまで討議をしてきたと思っている。私がこの市政戦略会議の可能性の一つとして非常に期待したのが、まちづくりの観点から活用されていない資源の活用ということだ。市内の各所でまちづくりが進んでいるが、これまでお金がかかってばかりいた土地が、逆に税収のキャンパスになる。そうした場所がまだたくさんあると認識している。企業であれば、そうしたキャンパスで今後 10 年間、どれだけ収入を得られるかを考える。しかし、市ではそうしたキャンパスがあるという情報共有が庁内でなされていないから、有効活用のアイデアが出ないし具現化もしない。今後はいろいろなことを考えるとき、庁内でテーマを明確にした、様々な担当が横串でつながるプロジェクトを設けて取り組んでほしい。

○平田委員

答申内容については、市長から費用対効果は余り考えず市民のための有効活用のあり方を考えるよう要請があったので、どうしても大胆な提言にはならなかったが、これはやむを得ないことだったと思う。財政が危機的な状況になったときのバッファーを持っておくのは一つの考え方で、施設の有効活用策を考えることはその前段として、それなりに有効だったと思う。

また、提言に入れられなかった様々な意見を補足資料として付けてあるので、市には補足資料の意見もしっかり読んで活かしていただきたい。

○福井委員

私はＡグループとして、文化施設や博物館を視察し検討させていただいたが、私自身はこれらの施設の多くを利用しているので、その中で考えていたことと、他の委員から出された意見を、市のほうでどう捉え、これら施設をどう運営していくのかの様子を、期待をもって見守っていきたい。

○岡田委員

私はＢグループで参加し、勉強させていただいた部分も多かったなと思っている。震災時の貸館の活用やＩＴ面での活用といった話、また各施設が単に箱物としてあるだけでなく、新たな使用方法をきちんと視野に入れるべきだという意見を聞き、非常に感銘を受けた。

私は労働組合という立場でもあるので、効率的に運営することはもちろん重要だが、そこに働いている方々の雇用の面にも十分配慮されたいという意見もよくさせていただいた。そういう意味では、実際に施設を運営している所管の方々が、私たちの意見に対しどういう感想を持ったのかを聞いてみたい。所管の方々も当然、今まで利用率を上げるために工夫をしてきたと思うので、門外漢の我々が横から意見したことに対し、それはもう取り組んでいるとか、新しい視点を得ることができたとかをどう思っているのだろうか聞いてみたい。

また、附帯意見に民業圧迫の意見を入れていただいているが、これは民業圧迫すること自体の話でなく、ルールを決めて運営することが重要だと思っている。ルールがないまま、ニーズがあるからやろうというような、ずるずる感があったと思い、意見として述べさせていただいた。

○田口副会長

委員の皆さまに時間を割いていただいて全施設を視察し、真剣に議論をした結果がこの文章だと思っている。我々が取り組んできたことが決して形だけで終わることのないよう、今後の市の対応についてフィードバックしていただけるとありがたい。

○栗林会長

今回我々がまとめたこの答申は、いくつかの制約がある中、市長の諮問に対して真剣に取り組んだ結果である。自信を持って出せる答申であるというのは、会長としての一つの結論だ。また、冒頭に若干辛口のコメントをしたが、私の真意は、この市政戦略会議の存在が市川市の行政改革に少しでも寄与できるようにしたいということだ。民間の委員が多いわけで、市場原理の視点からの意見がよく出る。これは当然、十分に参考すべきことだ。ただ、行政というのは、民間の市場原理ではできない、市民の暮らしに必要なことを、税金を使って行う、非常に特殊なセクションだ。このことも踏まえつつ、委員一同、本市の行政改革に今後も少しでも寄与したいと願って

いる。

では、事務局より答申の中身についてご説明いただきたい。

（事務局より、答申書に施設ごとに記載されている提言及び附帯意見を読み上げて説明）

○栗林会長　以上が、市長への答申内容と今回の取り組みに対する各委員の意見である。では、休憩を挟んで16時45分より市長に答申を行いたい。

【午後4時40分　中断】

（　休　　憩　）

【午後4時45分　再開】

２．答申

平成22年10月1日に市長より市川市市政戦略会議に諮問された事項のうち、(1)行財政改革②施設のあり方について、その答申書が、栗林会長より市長に提出された。

○栗林会長

ただいま大久保市長に答申書を提出した。市長の諮問を受け、その内容について全委員が真剣に取り組み、本日の答申を取りまとめたことを再度強調させていただく。

市川市は全国約1,800ある市町村の中でも財政力指数の高い市であり、他市町村に比べると財政的に若干の余裕があると言える。そうした背景の中、今回の市長からの諮問は、施設の維持を前提にその有効活用を考えてほしいというニュアンスであったと我々は受け止めている。しかし、本市の中期財政見通しでは今後の非常に厳しい財政運営が容易に予想されるところである。事実、他の市町村にあっては、せっかくつくった博物館が建物ごと立ち枯れてしまうことも散見され、その理由は単に予算がないからというだけのことである。現在、本市はそういった状況ではないが、将来に備えなければいけないとの強い危機感を持っている。

市民目線という言葉、これは大久保市長のお言葉である。私の言葉としては、市民の暮らし向きをよくするため、と再三強調して申し上げているが、市長には、今後非常に重要な行財政改革の陣頭指揮をとっていただき、聖域なき行財政改革に取り組んでいただきたい。そして、我々市政戦略会議も少しでも行財政改革に寄与していきたいと思っている。

○大久保市長

皆さまには大変お忙しい中、勉強会や現地視察、公開検討会とお時間を割いていただき、そして貴重なご意見を答申としていただいたことを厚く御礼申し上げる。

一言に施設と言っても生い立ちや目的がそれぞれ違う中、短期間で現状を捉え、大変貴重なご意見をたくさんいただくことができたと報告を伺っている。その中には、私も思いつかないような視点からのご意見もいただいた。いただいたご意見を重く受け止め、これから実際にどうやって運営に役立てていくのかをよく検討し、公表させていただきたい。また、会長からのお言葉により行財政改革について思いテーマをいただいた。これは私の使命と思っている。1 年で簡単に解決できるものではないと思うが、今後どうやって進めたらいいかを考え、来年度から着手していきたい。

最後に、連合千葉市川・浦安地域協議会推薦の岡田稔彦委員が同協議会の事務局長を退任することと併せて市川市市政戦略会議委員を辞任(後任は同協議会より新たに推薦予定)することとなり、岡田委員より退任の挨拶があった。

○岡田委員

先ほど会長から、行財政改革について今後もきちんと進めていくという力強い言葉があったところではあるが、市政戦略会議委員になって 1 年余りと道半ばで退任することとなった。

今後は一介のサラリーマンに戻って、市川市の中で働く者として、納税者の立場になるが、この会議がますます盛んに議論され、行財政改革が進むことを期待している。後任の者にも私からきちんと引継ぎさせていただき、発言をさせていただければと思っている。

短い間でしたがお世話になりました。ありがとうございました。

【午後 5 時 00 分　閉会】